

実践検討部会 概要

部 会 名	令和元年度第1回アセットマネジメント実践検討部会（グループB）
開 催 日 時	令和元年7月26日（金） 13：30～16：30
開 催 場 所	埼玉会館 6C会議室
出 席 者	<p>【部会委員】 秩父市、東松山市、羽生市、新座市、久喜市、幸手市、毛呂山町、川島町、神川町、寄居町、杉戸町(11団体)</p> <p>【有識者】 有限責任監査法人 トーマツ アドバイザー パートナー 宗和 暢之氏(講演)</p> <p>【傍聴者】 蕨市、富士見市、吉川市、越生町、嵐山町</p> <p>【事務局】 埼玉県市町村課</p> <p style="text-align: right;">計31名</p>
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 外部有識者による講演 4 取組状況の発表及び外部有識者への質疑応答 5 意見交換 6 閉会
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・個別施設計画の策定及び総合管理計画の改訂に向けた取組状況について ・意見交換テーマ一覧表 ・外部有識者への質問票 ・講演資料（有限責任監査法人トーマツ 作成資料）
意 見 交 換	<p>①庁内合意について</p> <p>○個別施設計画と総合計画や予算との整合性について</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算査定ヒアリングに同席して財源との調整を行うが、財源が不足する場合は計画の後ろ倒しも有り得る。 ・ 同じ部でアセットも予算も担当しているので、予算と計画を合わせていきたい。 ・ まだ他の計画との整合性を図る段階に至っていないが、今後総合計画や実施計画を更新するタイミングで個別施設計画に合わせていきたいと考える。

【有識者から】

- ・ 財源等については補助金や地方債は不確かな面もあるので、実績値やシミュレーションで策定するしかない。10年間の計画として、前半部分と後半部分では精度が違ってくる。
- ・ 総合計画とアセットマネジメントの整合性を図っている自治体はほぼない。理由は公共施設の再編がハコ中心で議論されており、機能についてはあまり話されていないから。例えば、小学校と公民館が集約されることにより、地域コミュニティにどのような影響があるのかといった、機能の面についても整理したほうがよい。

② 個別施設計画の策定について

- 計画通りいかない場合の判断について
- 予算策定ヒアリング時に同席しているか

【有識者から】

- ・ 個別施設が後ろ倒しになることは当然あり得る。財源不足によることもあるが、工事等の組み合わせにより、後ろ倒しに実施したほうがよい場合もある。
- ・ 予算査定に同席するにせよ、事前調整するにせよ、個別施設計画に反映させる機会が必要であり、計画は常に見直す形になってくる。例えば各課が個別施設計画案を提出し、それをもとにある程度ふるいにかけて、計画通り行うか、後ろ倒しにするか決めていく形になると思う。

③ 住民説明について

- 住民説明の時期と合意について
- 外部検討委員会の関わり方について
- 議会への説明について

【主な意見】

- ・ 来年度、検討委員会を開催。住民に参加してもらい、住民の意見を吸い上げたいと考えている。
- ・ 今年度中に住民説明会を開催し、削減する必要がある値を示したいと考えている。議会には全員協議会で説明する。
- ・ 検討委員会やワークショップに、議員に参加してもらっている。

【有識者から】

- ・ 外部検討委員会にお願いするのはいいことだが、団体として委員に求めている役割とミスマッチを起こす可能性があり、合意をとれるか難しい部分がある。例えば、この施設については大規模修繕をするといった個別具体的なことは委員では判断がつかない。

- ・一つのポイントは総論賛成、各論反対の傾向にあること。各論で反対が出た時には、必ず総論の話に持っていけるような環境づくりが大切。全体の財政状況、公共施設の状況、使われている施設、使われていない施設をしっかりと説明する。
- ・身の丈に合った計画とは、全部を持ってないということ。例えば病院を持つ代わりに文化ホールを持つのをあきらめる等。何を持って、何を持たないか判断をするのが身の丈に合ったということ。そして、その判断を行政が勝手に決めるのではなく、住民の意見を聞いて進めていくことをしっかり伝えていく必要がある。

④ 跡地の活用について

- 統廃合で生じる跡地の利活用について
- 市街化調整区域での集約化・複合化事業について

【主な意見】

- ・将来的なビジョンを持って方向性を判断する必要がある為、現時点ですぐに判断できないと考えている。
- ・原則は売却と考えているが、調整区域にあるため、売却は難しく、処分方法を検討している。
- ・施設を集約化し、廃止施設は売却と考えている。集約化先は市街化調整区域を考えているが、当市では事例がない。
- ・借地に立っている公共施設は返還する方針で再配置を進めている。
- ・社会福祉施設を社会福祉法人に譲渡した。

【有識者から】

- ・売却するのか、保有するのか、自治体の基本的な「スタンス」によっているように感じるが、「スタンス」で決められるものではないと思う。将来、町の為になるから残すとか、コンパクトシティを進める為には必要ないとかその土地についての明確な考えのもとで決定することが必要。
- ・再配置の計画については、ただ一方的に減らすよりも、例えば4つの施設を集約化、新しい施設を1つ建てるという方法のほうが跡地の有効活用について議論することができる。スクラップアンドスクラップよりもスクラップアンドビルドのほうが議論しやすい。

⑤ 公共施設等総合管理計画の改訂について

- 改訂に係るインフラ施設部門の把握と連携について

【主な意見】

- ・各インフラ所管課には令和2年度までに個別施設計画を策定することは確認したが、詳細の情報共有はこれから。

- ・ 上下水道は個別施設計画の策定はできている。道路は長寿命化計画を作る予定。
- ・ インフラ部門については令和2年度までに、個別施設計画を作成するようにアプローチしている。

【有識者から】

- ・ ほかの自治体もハコモノは一体で把握しているが、インフラはばらばらというのが現状。公共施設等総合管理計画に反映させなければならぬと伝えただけで、策定状況等を調査したほうがよい。インフラは基本的に長寿命化になってしまうので、新しい技法を用いる場合等は別だが、効果額の算出は期待できないと思われる。

⑥ 意見交換まとめについて

【有識者から】

- ・ なぜ個別施設計画を作るのか。大切なのは公共施設の現状の見える化。各所管課がこうした計画を作るだけでも大前進と思う。計画を作ることで初めて、これは計画通りできる、できないというのが議論できる。庁内の意思決定が見える化するのが趣旨。
- ・ どんな計画を作ると議論するよりも、どういう運用をしていくかといったところから考えほうがわかりやすく計画を作ることができる。活用の点から考えたほうがいい。